



## 高まる「社会人基礎力」の重要性

◆ 2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」(317号参照)が、同省の「人材力研究会」報告書をもって、2018年に更新されました。

◆ 「社会人基礎力」とは、職場や地域社会の中で多くの人々と接触しながら仕事をしていくために必要な能力を指します。

◆ 当該能力を形成する「三つの能力・12の要素」に変更はありません。

変わったのは、従来、大学教育や就職・採用、新入社員研修等、限られた年代での活用が中心であったものを、

全ての年代が意識すべきものとした点です。再定義の理由は、人生100年時代の到来やDXへの対応等から、今後、学び直しの重要性がより一層高まるためです。

◆ 同報告書は、これからの時代は学歴よりもむしろ「社会人基礎力」をアップデートし続ける「OS(基盤)」の強化がより一層重要になるとし、自分自身を振り返りながら更新し続けるための「三つの視点」を示しています。

「①何を学ぶか」、「②どのように学ぶか」、「③どう活躍するか」の三つです。

◆ また、ライフステージの各段階で、三つの視点に沿った問いを発することが、自らの能力や体験を客観的に振り返りつつ、「社会人基礎力」を高めていく上で有効であるとし、段階ごとに発する問いを一覧で示しています。(318号参照)

◆ 「社会人基礎力」は、年齢やライフステージの各段階で、発達が期待される能力に濃淡があります。このことから、今の自分にとって何が必要なのかを、外的な環境要因を踏まえながら、常に意識し続けることが必要になります。

